

# 令和5年度 浜松市 英語教育改善プラン

## 目標

外国語に慣れ親しみ、言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育む。異文化に対する理解を深め、グローバル社会で活躍できる児童の育成と教員の指導力向上を図る。

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ① CAN-DOリスト形式の学習到達目標を設定している学校が、R3年度 43% → R4年度 90%となった。  
(英語教育実施状況調査)
- ② 言語活動時間の割合が R3年度 87% → R4年度 93%となった。  
・パフォーマンステストの状況についても、R3年度 94% → R4年度 99%となった。  
(英語教育実施状況調査)

#### 未だ改善が必要な点

- ① 英語教育における小中連携の実施状況が、R3年度 72% → R4年度 35%と大幅に下がっている。  
(英語教育実施状況調査)
- ② 本市が9月に実施した、学習者用デジタル教科書の使用状況調査において、75%以上の頻度で活用している学校が15%程度に留まった。

### 2. 分析

- ① CAN-DOリスト形式の学習到達目標の浜松版を作成し、各校へ送付した。  
・英語力向上事業の授業改善研修において、CAN-DOリストを振り返りに活用している学校の事例発表を行った。
  - ② 言語活動に関する教員のセルフチェックシートを実施し、研修内容と連動させた。  
・市教研やセンター、英語力向上事業の授業改善研修など、各種研修で言語活動を扱い、内容につながりを持たせた。
- ① 小学校・中学校が別々に研修を行っていることが多く、情報交換する機会も少ない。
- ② 担当教師がICTや学習者用デジタル教科書の使用に慣れていない。  
・どのように活用したら、付けた力を達成するうえで効果があるのか、具体的にイメージできていない。

### 3. 施策・事業

- ① 学習到達目標を指導に生かすため、研修会とうおいて効果的な活用についての周知、事例紹介、情報共有をする。取組を進めることで、目標を設定するだけでなく、公表や達成状況の把握につなげる。
  - ② センター等と連携し、ワークショップ型の研修を行うことを通して、単元計画作成や言語活動の充実を図る。
- ① 市教研と連携し、以下の取組を進めていく。
- ・研修講話で小中高の学びのつながりについて話す。
  - ・主任者会の座席を中学校区ごとに設定し、情報交換の機会を設ける。
  - ・これまで小中別々に行ってきた第3回市教研の授業公開において、他校種の授業を互いに参観できるようにする。
- ② 積極的に活用している学校による事例や教育的効果の紹介を行い、資料を教員ポータルサイトを使って共有する。

一定の英語力を有する

小学校教師の新規採用に係る取組

- ・採用選考試験においては、以下の英語資格を有する者に、2段階で加点を行い、小学校受験希望者が英語力の必要性を実感できるようにする。
- <第1段階> 中学校英語免許状、英語検定2級、TOEFL iBT 60点以上、TOEIC 600点以上
- <第2段階> 英語検定準1級、TOEFL iBT 72点以上、TOEIC 785点以上

# 令和5年度 浜松市 英語教育改善プラン

## 目標

言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育む。異文化理解を深め、グローバル社会で活躍できる生徒の育成をするとともに、学びのつながりを意識した教員の指導力向上を図る※小中連携75%以上

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

- ①・授業における、生徒の英語による言語活動の割合が、R3年度 77% → R4年度 85%となった。  
・パフォーマンステストの状況が、R3年度 86% → R4年度 93%となった。  
(英語教育実施状況調査)
- ②CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が、R3年度 41% → R4年度 45%となった。  
(英語教育実施状況調査)

### 未だ改善が必要な点

- ①英語教育における小中連携の実施状況が、R3年度 72% → R4年度 35%と大幅に下がっている。  
(英語教育実施状況調査)
- ②本市が9月に実施した、学習者用デジタル教科書の使用状況調査において、75%以上の頻度で活用している学校が15%程度に留まった。

## 2. 分析

- ①・市教研やセンターの研修で、発信技能の言語活動についての理解を深めた。英語力向上事業の授業改善研修では受信技能の言語活動について、協議を行った。  
・言語活動に関する教員のセルフチェックシートを実施し、研修内容と連動させた。
- ②市独自の学力調査において、学習指導要領で求められる力を踏まえた問題を作成し、結果から見えた課題点について補充する問題を、生徒も教師もアクセスできる共有ドライブに格納した。
- ①小学校・中学校が別々に研修を行っていることが多く、情報交換する機会も少ない。
- ②・担当教師がICTや学習者用デジタル教科書の使用に慣れていない。  
・付けたい力を達成するための効果的な活用について、具体的にイメージできていない。

## 3. 施策・事業

- ①・市教研やセンター等と引き続き連携し、ワークショップ型の研修を行うことを通して、単元計画作成や言語活動の充実を図る。  
・外国語科の授業に関連した実践的な研究を進めた研究員の成果等を、発表会や論文の配布を通して市全体に広める。
- ②研修の講話等で、市の学力調査の問題を取り上げ、求められる力を付けるには、日頃どのような指導をしていくべきか考える機会を設定する。
- ①市教研と連携し、以下の取組を進めていく。
  - ・研修講話で小中高の学びのつながりについて話す。
  - ・主任者会の座席を中学校区ごとに設定し、情報交換の機会を設ける。
  - ・これまで小中別々に行ってきた第3回市教研の授業公開において、他校種の授業を互いに参観できるようにする。
- ②・令和5年度・6年度は、浜松市の教育研究指定校においてICTを活用した授業改善に取り組む。英語科でも、授業公開等を通して取組の成果や効果的な活用方法を全体で共有できるようにする。
  - ・積極的に活用している学校に聞き取り等を行い、得られた事例や教育的効果を共有ドライブで共有する。

# 令和5年度 浜松市 英語教育改善プラン

## 目標

4技能の言語活動及び統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒の育成をするとともに、教員の指導力向上を図る。 ※英語担当教師の授業における英語使用状況 全員50%以上

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

- ①全ての授業において、生徒が50%以上の時間、言語活動を行っている。  
(英語教育実施状況調査)
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合は73%と高く、うちCEFR B1レベル相当以上も49%と高い水準を示している。(英語教育実施状況調査)

### 未だ改善が必要な点

- ①小学校・中学校との連携ができていない。  
(英語教育実施状況調査)
- ②授業における英語担当教師の英語使用状況に関して、英語による発話が50%未満に留まっている。  
(英語教育実施状況調査)

## 2. 分析

- ①市教委の訪問時に、学習指導要領で求められている資質・能力、言語活動の具体について研修を行った。
  - ②外部試験を活用しており、経年変化を分析して授業改善につなげている。
- ①小学校や中学校における学習内容や指導との接続について学ぶ機会がなかった。
  - ②生徒が英語に触れる機会を充実させる必要性、授業は英語で行うことを基本とすることについての理解が十分ではない。また、生徒の理解の程度に応じた英語を用いることが意識されていない。

## 3. 施策・事業

- ①・計画訪問で授業参観を行い、再度学習指導要領について理解を深める研修を行う。  
・県教育委員会が行う研修への参加を奨励し、4技能の言語活動だけでなく、統合的な言語活動や指導と評価の一体化について学ぶ機会を得られるようにする。
  - ②外部試験の活用及び分析を引き続き行い、授業改善に取り組む。
- ①計画訪問時に事後研修を行い、小学校・中学校・高等学校における学びのつながりや、連携の在り方について考え、理解を深める場とする。  
(将来的には、近隣の小中学校と連携した取組、体験授業なども考えていく。)
  - ②研修において、学習指導要領で示されている「授業は英語で行うことを基本とすること」を改めて確認し、英語担当教師全員が授業において、発話の50%以上を英語で行うことを意識するよう促していく。